

【評価規準の設定】

以下に示す規準 A～F によって、研究論文を評価します。

規準 A：体裁

この規準は、論文に期待されるレイアウト、構成、見た目などが、標準的なフォーマットにどの程度従っているかどうかを評価する。構成とは、【執筆要項】に示される要素のことを言う。

科学的研究では、図表やスケッチ、写真などの参考資料が必要になることがあるが、文献から借用した図や絵などの出典を明記する際には注意が必要である。また、明確な目的もなくただ単に図や絵などを論文に載せることは避けなければならない。図や表などの資料は、それが議論の補強となる場合や、別の方法では表せないような情報を提供できるような時にのみ使用するようにする。

図表・写真・資料についてはそれぞれの種類ごとに通し番号（図 1、図 2、表 1、表 2…）とキャプションをつけ、本文中の適切な場所に挿入し、言及すること。キャプションは、図や写真なら下部、表なら上部につけるのが一般的である。

到達度	レベルの説明
0	指定されている形式・体裁となっておらず、許容しかねる。
2	概ね指定されている形式・体裁となっているが、一部修正が必要である。
4	完全に指定されている形式・体裁となっている。

規準 B：要旨

論文要旨は、それを読めば研究の概要が分かるように記述されなければならない。そのため、要旨では「研究目的」、「どのようにして研究が実施されたのか」、「結論」が明確に述べられなければならない。

到達度	レベルの説明
0	上記の 3 つの要素のどれかが欠けている。
2	上記の 3 つの要素がすべて述べられている。
4	上記の 3 つの要素がすべて明確に述べられており、研究の概要がわかりやすくまとめられている。

規準 C：序論

C-1：本研究の意義

この規準は、先行研究を踏まえた上で、「なぜ研究に値するのか？」に対する説明が、どの程度明確に説明されているかを評価する。自身の研究の新奇性でオリジナリティを主張するためにも、先行研究について調査することは重要である。

到達度	レベルの説明
0	「なぜ研究に値するのか？」について説明しようという試みがほとんど、あるいはまったく見受けられない。
1	先行研究を踏まえた上で、「なぜ研究に値するのか？」について説明されている。
2	先行研究を踏まえた上で、社会的意義や知的好奇心等の具体的な理由とともに、「なぜ研究に値するのか？」について明確に説明されている。また、本研究では何が明らかにされ、どのような社会的価値や学術的価値につながるのか、的確に説明されている。

C-2：今年度の研究目的

研究は、その目的が大きければ大きいほど、いくつものステップを踏んで段階的に行われる必要がある。従って、そのステップごとに研究活動の目的が設定されなければならない。本論文は、今年度の研究活動のまとめとして執筆するものである。よって、今年度の研究活動に限定して、どのようなことを明らかにしたいのかなどの目的を明確に説明する必要がある。継続研究の場合は、昨年度までの研究を踏まえ、本研究全体の中での今年度の研究活動がどのように位置づいているかを示す必要がある。また今年度の研究の目的を明確にするためにも、過去に先人たちはどのような研究を行い、どこまで明らかになっているのか、何が明らかになっていないのかを明記する必要がある。継続研究の場合は、これまでの取り組みについてもそれらのことを明記しなければならない。

到達度	レベルの説明
0	全く書かれていない。
1	研究目的が述べられているが、明確に説明されていない、または幅広すぎる。
2	今年度の研究活動において、何を明らかにするのか説明されている。
3	先行研究の調査または継続研究を踏まえ、今年度の研究活動において、何を明らかにするのか説明されている。
4	先行研究の調査または継続研究を踏まえ、今までに何が明らかになっていないのかということが明記されており、それをもとに今年度の研究活動において何を明らかにするのか説明されている。

規準 D：研究の方法

D-1：研究方法の妥当性

この規準は、示された研究目的を達成することのできる研究方法になっているかを評価する。研究成果を主張するためにも、その研究方法に妥当性がなくてはならない。

到達度	レベルの説明
0	研究の方法が示されていない。
1	研究の方法を述べているが、今年度の研究の目的に到達し得る方法になっていない。
2	今年度の研究の目的に到達するための研究の方法を述べている。
3	今年度の研究の目的に到達するための研究の方法を述べている。 さらに、先行研究等の情報に基づいて、方法論を選定した証拠が見られる。

D-2：研究方法の再現性

研究で得られた成果は、他者によって追試・再現可能でなければならない。そのために、研究成果を再現できるだけの必要な情報をすべて論文中で明らかにしておくことが求められる。

到達度	レベルの説明
0	示された研究方法では、追試・再現ができない。
1	示された研究方法は、研究結果に影響を与える要素（測定条件や試薬の量、研究対象者、アンケート項目など）が示されており、追試・再現可能である。
2	示された研究方法は、研究結果に影響を与える要素（測定条件や試薬の量、研究対象者、アンケート項目など）が示されており、追試・再現可能である。 さらに、フローチャートや研究の様子を示す図などを活用して、研究の方法がとても分かりやすく示されている。

規準 E : 結果・考察

E-1 : 論理的展開

今年度の研究から得られた結果を示し、その結果からどのような解釈ができるのかなどについて、論理的に考察しなければならない。そのためには考察の根拠となる研究結果を明確に提示する必要がある。

到達度	レベルの説明
0	得られた研究結果に対して、考察がなされていない。
2	得られた研究結果に対する考察が限定的であるため、目的に対応する考察になっていない。
4	得られた研究結果に対して、そのような結果となった要因や、結果から言えることなどについて考察しているが、部分的に根拠が不明確、不十分であり、論理的な飛躍が見受けられる。
6	得られた研究結果に対して、そのような結果となった要因や、結果から言えることなどについて、根拠となる研究結果を的確に参照しながら、筋道立てて論理的に考察している。

E-2 : 分析スキルと評価スキルの適用

研究結果は、結論につながる議論をより明確にしたり補強したりするような形で分析、提示するようにする。加工されていないデータの表などを提示するだけではこの目標を果たすことはできない。原データは必ず論文の中心となる議論に明確かつ直接つながる形で分析、処理、提示する。必要に応じて、この分析で仮説の正当性について評価する。また、研究手法、機器や技術に関する誤差や不確定要素、物理データにおける不確実性の程度についても分析し、評価しなければならない。

到達度	レベルの説明
0	研究結果が示されていない。
1	研究結果は示されているが、その提示において「何を伝えたいのかがわかる形」で示されていない。
2	研究結果が、グラフ・表・図・写真などを用いて「何を伝えたいのかがわかる形」に変換された上で示されており、正しくキャプションがつけられている。
3	研究結果が、グラフ・表・図・写真などを用いて「何を伝えたいのかがわかる形」に変換された上で示されており、正しくキャプションがつけられている。さらにそのデータ分析から読み取れる内容が述べられている。また数値データを示す場合、測定の限界を理解し、有効数字を考慮して示している。
4	研究結果が、グラフ・表・図・写真など「何を伝えたいのかがわかる形」に変換された上で示されており、正しくキャプションがつけられている。さらにそのデータ分析から読み取れる内容が明確に述べられている。また数値データを示す場合、測定の限界を理解し、有効数字を考慮して示している。偶然誤差や系統誤差、データのばらつきや有意差についても分析している。

規準 F : 結論

この規準は、研究目的に対して適切な結論が論文に組み込まれているか、また、その結論が論文の中で扱った証拠と一致しているかについて評価する。よって、結論において新たな問題や無関係な問題に触れたり、結論が序論の単なる繰り返しになったりすることは避けなければならない。結論は研究目的に直接関連し、かつ主要な研究結果について述べたものでなくてはならない。科学的研究では、予想外の結果が明らかになることがしばしばある。このような場合、たとえ結果が当初の計画にはまったく含まれていなかった場合でも、これらを報告しなくてはならない。最初に設定した研究目的に完全に答えることができないこともある。そのような場合には、解明できなかった問題を指摘し、これらをさらに研究するためにはどうしたらいいかを提案するようにする。

到達度	レベルの説明
0	研究の目的に対して、適切な結論になっていない。
2	研究の目的に対し、得られた研究結果に基づいた結論を構築しているが、その論理には一貫性が欠けている。
4	研究の目的に対し、得られた研究結果に基づいて、結論を論理的に示している。さらに、これまでの研究方法の妥当性を評価し、今後の課題を明確に示している。
6	研究の目的に対し、得られた研究結果に基づいて、結論を論理的に示している。さらに、これまでの研究方法の妥当性を評価し、今後の課題や今後の展望（社会・学術面への貢献など）を具体的に示している。

各規準の配点一覧

	規準 A	規準 B	規準 C-1	規準 C-2	規準 D-1	規準 D-2	規準 E-1	規準 E-2	規準 F	合計
	体裁	要旨	序論		研究の方法		結果・考察		結論	
満点	4	4	2	4	3	2	6	4	6	35